

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【 職業科 】

1. 対象 知的特別支援学校分校 高等部3年 17名
2. 単元名「社会人の生活 ～実践編～」(全7時間)
3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心構えやビジネスマナー、ストレスコントロールについて分かっている。 ・卒業した先輩の話聞いて、社会人としての仕事への取り組み方について新たに気付いている。
思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の理想としている生活を書き、卒業後の生活を考えている。 ・社会人としての生活をするうえで、今後、自分が困りそうなことを考えて書き出している。 ・自分の理想としていた生活と、自分で見直した生活、また起こり得る困りごとをグループの仲間に伝え、考えを共有している。
学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事への心構えやビジネスマナー、ストレスコントロール、先輩からの話で学んだことを基にして、生活マップを修正し、自分の生活を豊かにしようとしている。

4. 授業展開【 単元 】

解決したい課題や問い

- よりよい職業生活を送るための対処法を知ろう

考えるための材料

- ・職業の授業で使用したワークシート
- ・過去の実習日誌
- ・過去のCDF（キャリアデザインファイル）
- ・生活マップ
- ・質問&解答用紙（予想される困りごと、知りたいことなどを記入できるようにする）
- ・本校卒業生からの話
- ・ハローワークの講話
- ・グループワークでの仲間の意見
- ・ジャムボード

想定される活動

- ※9月25日～10月6日 高3 職場実習 10月10日、11日 職場実習振り返り（CDF作成など）
- 10月11日 生活マップ作成（個人作業）
→社会人になったときの理想とする生活（生活マップ）を書き出す。これまでの職場実習を振り返りながら、現実的な職業生活を考える。
- 10月19日 ・先輩から学ぼう
・ビジネスマナー 事前学習
→本校を卒業した先輩やハローワークの方への質問を書き出す。また、社会人になったあとに予想される困りごとを書き出し、どのように対処するか考える。
- 10月17日 先輩から学ぼう 当日（※卒業生来校）

→本校卒業1年目の先輩の話聞く機会を設け、自分事として捉えながらメモを取る。自分が理想としている生活（生活マップに記入したこと）と、実際の社会人の生活とを比較し、職場実習の経験だけでは気付かなかった生活について分かる。事前に準備した質問を言い、自分が想定していた答えと似ているのか、または違っている意見なのかに気付く。

○ 10月31日 ビジネスマナーを知ろう 当日（※ハローワーク来校）

→【社会人としての心構え】【ビジネスマナー】【ストレスコントロール】 など

実態別の2グループに分け、それぞれに合わせた講話をいただく。現場で求められている力を知ったり、自分と他者（職場の方）との協力の仕方について考えたりする。また、卒業後の仕事以外の場面で必要になることについて理解を深める。

○ 11月21日 生活マップ修正

→10月17日に作成した生活マップを見て、先輩の話やハローワーク講話を参考にし、よりよい職業生活に向けて、健康管理や余暇の過ごし方を含めた全体的な生活を考え、生活マップを修正する。グループワークを通して、自分や仲間の生活を考える。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

・生活マップ作成を通して、自分と「理想とする自分」とで対話する。

⇒「社会人になったらこんな生活がしたい。」「○連勤、頑張れるかな。」「帰宅後は今の過ごし方ができるかな。」「休日は○○したい。」「いただいた給料でこんなことをしてみたい。」

・先輩から学ぼうでは、複数のグループに分かれて先輩と生徒同士、生徒同士で対話ができるようにする。

⇒生徒の希望している職種よりも相性を優先する。話しやすい雰囲気を作る。

「仕事のやりがいを教えてください。」「仕事は楽しいですか。」「仕事を始めて、一番落ち込んだ出来事は何ですか。」「高校生活と社会人としての生活で一番違うことは何ですか。」「職場の人とコミュニケーションをとる機会は多いですか。」

『お客様の顔が見えるとよりやりがいを感じるんだな。』『大変そうだけど、やっぱり楽しそう。』

『なるほど。それは2週間の職場実習だけでは気付けなかった。』『入社してからも苦労はあるんだな。』『就職がゴールではなく、スタートなんだ。』

・ハローワーク来校時は2つのグループ（実態別）に分かれる。分かれることによってハローワークの方との対話（質問を含む）をしやすくする。

⇒生徒8人のグループと生徒9人のグループに分かれる。

「基本的なビジネスマナーを知ることができた。」「挨拶は大事。でも挨拶の仕方やタイミングも大事だと分かった。」「いつでも、どこでも、誰とでもできるようにしよう。」「今回教えていただいたことが就職先でもできるかな。」「大丈夫だと思っても、ストレスが積み重なっていくことがあるんだな。」「今から自分なりのストレス解消法を見つけよう。」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

・これまでの実習でも緊張はしていたけど、社会人としても心構えて大事なんだな。

・ビジネスマナーってたくさんあるんだ。覚えなきゃ。

・ストレスコントロールの話が参考になった。

・「新」社会人として働くことが楽しみ。

・学校では完璧に見えた先輩でも、社会人になってから挫けたり落ち込んでしまったりしたことがあったんだ。自分も心配だな。

・先輩のように、私も何かモチベーションを持とう。

・「初心忘るべからず」だ。

・最初に書いた生活マップの理想が高すぎたな…。

・先輩の話聞いてここが参考になったから、生活マップのこの部分を修正しよう。

・仲間の意見が参考になった。こういう余暇もいいな。

